



難民推薦入学制度： 教育は未来への投資

関西学院大学が開いた 夢の扉

2004年5月、浅羽俊一郎UNHCR駐日事務所副代表（当時）が講演のため、関西学院大学に来校した。その際、日本では難民が大学に進学することは困難であることを知った平松一夫学長が大学として何かできないか検討。そしてUNHCRが推薦する難民を、正規学生として迎える推薦入学制度を新設することが決まった。日本で初めてのこの制度を利用して2007年4月、2人の難民が入学した。UNHCR駐日事務所が関連のNGOや有識者と共に面接などを行って選抜した2人は学費全額免除で関西学院大学に入学でき、生活費などに充てる奨学金を受け取ることができる。

この新制度の背景には、国連ボラ

ンティア計画と協定を結び、学生を途上国に派遣するなど、国際教育に力を入れてきた関西学院大学のこれまでの実績と平松学長の強いリーダーシップがある。

今年入学した2人は、日本での生活が長いため、日本語に問題はなく他の学生と交友を深めゼミ活動など充実した学生生活を送っている。大学として特別扱いはしないが、国際教育・協力課の職員らが彼らと定期的に連絡を取る。「難民学生と一緒に学ぶことは、日本の学生にとって難民問題や国際問題に目を向ける機会となる」と浅野考平副学長も期待する。今年創設されたUNHCRユース関西チームでも関西学院大学の学生が多数を占め



関西学院大学



©関西学院大学

る。関西学院大学が始めた高等教育ならではの難民支援のあり方が今後、他大学にも広がるのが期待される。

関連情報：
<http://www.kwansei.ac.jp/>

青山学院大学に 引き継がれる志

「キリスト教の理念に『共生』という言葉があります。本学が難民を受け入れることは、その難民学生にとって大きなチャンスとなるのはもちろんですが、本学の学生にとっても、日本で暮らす難民の生活ぶりに触れることになり、今まで知らなかった“現実”を意識する良い機会となるでしょう」

2007年7月30日、首都圏の大学として初めて、青山学院大学とUNHCR駐日事務所の間で難民を対象とする推薦入学・奨学制度に関する協定が締結された。2008年4月から1名の難民が、入学金・学費の全額免除、奨学金の

支給、希望すれば入寮も可能という特典を受けることができる。UNHCRの呼びかけに対し、キリスト教信仰に基づく大学として「地の塩、世の光」をスクール・モットーとする青山学院大学が応えてくれた形である。

インドシナ難民を含め、日本には1万人以上の難民が生活している。彼らは新しい環境の中で生活基盤をゼロから築かなければならないという厳しい状況にあり、しかも経済的事情や母国の事情により、中・高等教育を受ける機会を失っているケースも多い。新しく始まった推薦入学制度は、



青山学院大学



©青山学院大学

能力や意欲のある難民学生に対する未来への投資である。

関連情報：
<http://www.aoyama.ac.jp/>